

静岡県の河川で観察できる生き物

静岡県を流れる川の中には、様々な生き物たちが暮らしています。川の生き物は、上流から下流、流れの強い/緩い、川底の違い、水がきれいなところ/汚れているところなど、川の中の環境の違いによってすみ分けをしています。身近な川にどんな生き物がいるか調べてみましょう。

観察の際の注意：川に行く際には、大人の人と一緒にいきましょう。急に深くなっている場所や流れが速い場所には近づかず、水辺ではライフジャケットを着用して、安全に十分注意しましょう。

魚

アマゴ 上流



体長 40cm

小型の魚類や昆虫、甲殻類を食べる。海に下るものをサツキマスと呼び、特徴である朱点がなくなり、銀色の体色になることから見分けられる。

カジカのなかま 上流~下流



体長 15cm

水がきれい流れがある場所を好み、泥底を嫌う。岩の隙間などに隠れていることが多い。水生昆虫や小魚を食べる肉食性。近年数が減っている。

ギンブナ 中流~下流



体長 30cm

川の中でも流れが緩いところを好む。イトミミズなど水中の生き物を食べる。春から夏にかけて、水辺の植物などに卵を産みつけて繁殖する。

ウグイ 上流~河口



体長 30cm

川の広い範囲に生息し、海に下るものもいる。春先になると川をそ上し、川の中の瀬で大きな群れをつくって産卵する。

モツゴ 下流



体長 8cm

身体に黒い線があることが特徴。川の中でも流れの緩いところを好む。春から夏にかけての繁殖のときには、卵を産みつける石などをオスが整えて、メスを迎え入れ、孵化した稚魚をオスが守る習性がある。

ボラ 下流~河口



体長 60cm

河口周辺の汽水域に多く、水の汚れに強い。大きな群れになり、水面に口をバクバクさせながら浮いているもの食べる姿や、水面をジャンプする姿がよくみられる。

ナマズ 中流~下流



体長 60cm

4本の長いひげが特徴。小魚やカエルなどを捕食する肉食性。薄暗くなる夕方から夜間にかけて、活発に活動する。春に、浅瀬で絡みついて産卵する姿を観察できる。

オイカワ 中流~下流



体長 15cm

大きなしりびれが特徴で、流れがある瀬を好む。藻類から水生昆虫まで幅広く食べる雑食性。繁殖期の夏になると、オスは鮮やかな青緑色の婚姻色が出る。

マハゼ 下流~河口



体長 18cm

海に近い汽水域に多く、砂泥の底を好む。ゴカイや小魚、貝類や甲殻類を食べる肉食性。オスが巣穴を掘り、メスを迎え入れ穴の中の壁に産卵する。

虫

ナベブタムシ 上流~中流



体長 8~9mm

流れがあるところの岩や砂底にひそむ。水中で呼吸できる体の仕組みを持つため、完全に水中で生活する。針のような口で刺される場合があるので観察には注意。

ヘビトンボのなかま 上流~下流



体長 50~60mm前後

幼虫は河川に生息し、水辺の土の中でまゆをつくり、成虫になる。強いあごを持ち、触るとかまれる場合があるので観察には注意が必要。

カワトンボのなかま 上流~下流



体長 20~60mm前後

ヤゴ(トンボの幼虫)は流れがある川に幅広く生息し、ほかの水生生物を食べる。川の中でも、岸際の水に浸かった植物や、落ち葉が溜まっているところを探すと見つかる。

カワゲラのなかま 上流~下流



体長 10~30mm前後

川底の岩の裏や枯れ葉の隙間などにいる。カゲロウのなかまの幼虫に似ているが、尾が2本で、爪が2本である点で分類できる。春~夏にかけて上陸して成虫になる種が多い。水がきれいなところを好む。

トビゲラのなかま 上流~下流



体長 2~40mm前後

幼虫は、河川の石の裏などに巣をつくる種とつからない種がいる。巣の材料には石や砂、枯れ葉や朽ち木などを利用し、それぞれの種で特徴的なものをつくるため、巣から種の見分けができることがある。

カゲロウのなかま 上流~下流



体長 5~20mm前後

さまざまな種が生息し、河川の中の上流から下流までの場所の違いや、流れの有無で見られる種が異なる。春~夏にかけて成虫になると、昆虫では珍しい亜成虫の段階を経る。

エビ・カニのなかま

サワガニ 上流~中流



体長 2~3cm(甲らの幅)

淡水で暮らすカニで、水がきれいな場所を好む。体の色は赤や白、青白いものなど地域によって異なる(写真は伊豆市産)。水中の藻類や昆虫、ミミズなどを食べる雑食性。

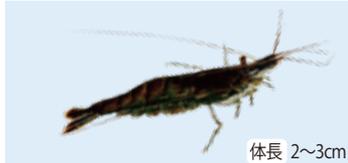
アメリカザリガニ 中流~下流



体長 8~11cm

水草や水の中の生き物を食べる雑食性。日本には本来いない外来種の中でも、特に環境にあたる影響が大きい「日本の侵略的外来種ワースト100」に選ばれている。飼育している場合は野外に放すことは控えよう。

ヌマエビのなかま 中流~河口



体長 2~3cm

水草や落ち葉だまりなどを探すと簡単に観察できる。脚をつかって藻類や動物の死がいなどをつまむようにして食べる。種によって一生を淡水域ですごすものと、繁殖の際に海に下り、成長すると川に入って生活するものがある。

テナガエビ 中流~河口



体長 5~15cm前後(胴の長さ)

岩陰やテトラポッドの影などに隠れている。長いササミが特徴で、エサをつまむときや、ほかの生き物と争うときに使う。卵から帰った幼虫は汽水~海に下り、プランクトンを食べる成長すると、稚エビになって川の中で生活するようになる。

モクスガニ 中流~河口



体長 7~8cm(甲らの幅)

普段は川の中で暮らしている大型のカニで、食用にもされる。秋~冬の産卵の時期になると河口へ下り、生まれたカニは成長すると川の中に入り生活する。

スズキ 中流~河口



体長 100cm

海水魚として知られるが、河川を遡上し淡水域にも適応する。魚類・甲殻類、ゴカイなど幅広いものを捕食する。

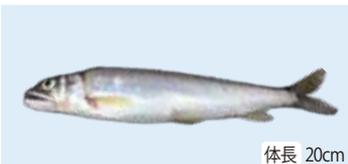
ウナギ 上流~河口



体長 100cm

屋間は岩のすき間や、泥に潜ったりして隠れていて、夜になると活発に活動し、小魚やエビなどを食べる。産卵は遠くフィリピン海の深海で行われることが分かっており、稚魚が海流によって日本の近くまで来て、川の中に入って生活する。

アユ 上流~中流



体長 20cm

秋~冬に卵からかえったものは、一旦河口へと下り、春先になると川をのぼり始める。成長するにしたがって川の石についた藻類を食べるようになり、なわばりを持つ。秋になると産卵し、一生を終える年魚。

マルタ 中流~河口



体長 50cm

ウグイに似るが、頭が丸い点と、大型の個体では50センチほどになり、ウグイより大型である。春先には河口から河川をそ上し、大きな群れをなして産卵する。繁殖期は赤い婚姻色が腹に現れる。

海と関わりのある生き物

水質を教えてくれる生物たち

川の中の生き物は、水がきれいなところでしか生きられないもの、汚くても生きていけるものがあります。川の中の生き物を探すことで、その川の水質や環境がどんな状態になっているのかが知ることができます。このような生き物たちを「指標生物」といって、下の表では水のきれいさを4つの段階に分けて、それぞれの水質を示す生き物を紹介しています。

きれいな水
(水質階級Ⅰ)



ナミウズムシ



ヤマトビケラ類



アマカ類



カワゲラ類



ヒラタカゲロウ類



ブユ類



ヨコエビ類



ヘビトンボ



サワガニ



ムナグロナガレトビケラ
(ナガレトビケラ類)



ヒゲナガカワトビケラ類



チラカゲロウ



シロタニカワカゲロウ
(タニガワカゲロウ類)



ミズカマキリ



ニホンドロソコエビ



ミズムシ



タニシ類



イソコツブムシ類

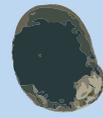


シマイシビル

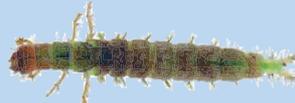
ややきれいな水
(水質階級Ⅱ)



カワニナ類



イシマキガイ



オオシマトビケラ



ヤマトシジミ



コガタシマトビケラ類



ゲンジボタル



ヒラタドロムシ類



コオニヤンマ

水質階級ⅠとⅡで見られる生き物
(指標生物ではない)



サカマキガイ



チョウバエ類



エラミミズ



アメリカザリガニ



ユスリカ類

またない水
(水質階級Ⅲ)

とてもまたない水
(水質階級Ⅳ)